網走水試ミニレター

No.40　2015. 7.3

網走では6月も気温の高い状況が続いていましたが、下旬には平年を下回り、少し肌寒さを感じたくらいです。春先から高い状況が続いていた網走沖の水温も6月に入って平年並みから平年以下に下がっています。オホーツク海沿岸でのホタテガイ稚貝の採苗は、水温が高めに推移したことから付着サイズの出現が早まり、採苗時期は例年より１か月近くも早まりました。幼生の発生や成長、海況も安定していたことから、今年の稚貝の採苗は順調に推移したことと思います。

▼6月に入ってオホーツク管内の各浜では、ホタテガイの本操業が始まっていますが、今年も海外からの引き合いが強く、また冬の時化による生産計画の縮小などもあり、高値が続いているようです。さて、網走水試では今年の「オホーツク海外海放流ホタテガイ貝柱歩留不良予報」をホームページに掲載しました。（http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/abashiri/section/zoushoku/HotateBudomariYohou.html）。この予報は4、5月の地まきホタテガイ漁場におけるホタテガイの成長と漁場環境のモニタリングデータを基に、6月以降にオホーツク管内で漁獲されるホタテガイ貝柱の歩留不良（歩留12%未満）が発生する確率を予測するものです。今年はオホーツク管内を東部海域と西部海域に分け、歩留まりの警戒レベルをそれぞれ東部海域がレベル２（6～7月に歩留まり不良が発生する確率はやや高く0.64～0.67、6～10月の確率は0.33～0.36）西部海域ではレベル３（6～7月に歩留まり不良が発生する確率は0.82～0.89、6～10月では0.73～0.78で、ともに確率が高く警戒が必要なレベル）と予測しました。この予報は平成24年から網走水試のホームページでお知らせしていますが、平成24年はレベル５（広域・長期にわたり発生確率が高く、全域で十分な警戒が必要）、平成25年はレベル１（発生確率が極めて低い）昨年の平成26年は、またレベル５となっていました。いずれの年も予報どおりの結果となりましたが、歩留まりは極端な値で推移しました。一昨年のレベル１の時は日本海で大量に発生した大型珪藻の影響などからホタテガイにとっての餌環境がきわめて良好で、貝柱に含まれるグリコーゲンの量が非常に高かったことを記憶しております。これら過去３年間は特異な環境であり、今年の環境がこれまでの長期にわたるモニタリング結果の中では平均に近いと考えられますが、このような年の予測は難しく、少しでも精度良く予測するため東部海域と西部海域に分けて予測しました。貝柱歩留まりが不良となることは、ホタテガイの生産や加工に大きく影響するため、今後歩留まりにとって少しでも良い海洋環境になることを期待したいです。

▼最後に、管内の市町・漁協・水産加工協等を対象に例年実施している「巡回訪問」を今月上旬から行っています。水試の試験研究の状況をお伝えするとともに、浜の課題・問題などを直接お伺いして、今後の水試の取り組みに反映させていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

（ 網走水試 上田 ）